

意見交流会「大阪・関西万博の持続可能性アセスメント」

日時：2021年3月16日（火）16時～18時

会場：ターネンビル NO2 2階（谷町四丁目駅）

【趣旨】

持続可能性アセスメントは、持続可能な開発に向けて、開発事業が環境・社会・経済に与える影響を調査・予測・評価し、市民などとの情報交流を通じて、より良い事前配慮を進める手続きです。EUにはその制度があり、ミラノ博でも実施されました。日本には制度も実践例もないため、SDGs（持続可能な開発目標）が達成される社会を目的とする大阪・関西万博には、先駆となることが期待されます。

環境アセスメント学会では3月9日、万博協会をはじめとする関係機関に持続可能性アセスメントの実施を要請する文書を決定しました。この内容を紹介し、市民の立場からどのような働きかけが可能か、意見交流をしたいと思います。

《次第》

16:00～16:05 開会（開催趣旨、経過の説明）

16:05～17:00 話題提供

- ①「環境アセスメント学会による大阪・関西万博での持続可能性アセスメントの提案」
- ②「大阪・関西万博の環境アセスメント準備書をどう読み込むか」

※話題提供者：傘木宏夫

（NPO地域づくり工房代表理事、環境アセスメント学会常務理事・情報委員長）

17:00～18:00 意見交流

18:00 閉会

《配布資料》

- ・傘木宏夫「愛知万博アセスをふりかえる」 p3～6
- ・環境アセスメント学会「2025 日本国際博覧会における持続可能性アセスメントの実施について（要請書）」 p7～9
- ・同要請書添付資料「2016年ミラノ国際博覧会における“持続可能なイベント”に向けた取り組み」 p10～12

共催：夢洲懇談会、特定非営利活動法人AMネット、NPO地域づくり工房

助成：独立行政法人環境再生保全機構「地球環境基金」

■話題提供（傘木宏夫）

1. 環境アセスメント

EIA：事業段階での環境配慮を促す手続き（日本）

SEA：政策・計画段階での環境配慮を促す手続き（米国、EU、中国、韓国、タイなど）

2. 持続可能性アセスメント（SA）

インパクトアセスメントは、重要課題（気候変動、生物多様性損失、人口増加、都市化、希少資源をめぐる争い、不平等、新たな技術課題など）に対する政策・計画（プラン）・プログラム・事業を策定・実行するうえで有益なツールである。インパクトアセスメントは、開発計画が具体的になる前に開発行為を批判的に検討することで、次世代の人々の暮らしがより良いものになるよう開発計画を修正し、ひいてはバランスのとれた持続可能な未来の実現にもつながっている。さらにインパクトアセスメントは、負のインパクトに対処するというチャンスを生かすことよって、開発によるプラスの影響をより大きくする力もある。意思決定の透明性を高めることは、環境問題・社会問題・経済問題を早い段階で同じ議論の場に持ち込む機会を与え、リスクを回避し、負の影響を補償する方策も提案可能になるのである。

※国際影響評価学会（IAIA：FASTIPS No.1, April 2012）

3. 環境アセスメントとSDGsの関係

- ①EIA/SEAは開発行為に関係する政策から事業実施後まで適用
SDGsは開発行為に関係なくあらゆる行為に適応可能
- ②EIA/SEAは法制度に従うが、SDGsは法制度を必要としない。
- ③EIA/SEAはSDGsの観点を取り込むことでより良いものになる。
- ④SDGsはEIA/SEAを利用することで、活動の幅を広げる。

4. 大阪万博アセスとSDGs

- ①市条例アセスだが、SDGsの観点を取り入れて、より良いアセスを
- ②市条例アセスの枠組みとは別に、日本を先導する持続可能性アセスを
- ③市条例アセスを、SDGsに寄与しうる制度改正へのきっかけに
- ④持続可能性アセスを土台に、大阪湾環境再生のレガシーを

5. 大阪万博アセスの準備書をどのように迎えるか

- ①愛知万博の実践に学ぶ
- ②環境に絞り込んだ読み込みと意見
- ③SDGsの観点から読み込みと意見への展開

以上